

# 25 journal

society&business Tokyo25 journal

執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

## 全国旅行支援を活用し、旅行を楽しもう 西多摩は観光活性化策の議論を

# キーワードは「高級な東京の奥座敷」

コロナ禍で打撃を受けた地域経済の再建を目指し、政府の観光振興策、全国旅行支援が10月11日開始した。東京都は20日に開始。旅行や宿泊予約は順調に入っているようで、人気の観光地、宿泊施設では発売と同時に売り切れになる事態も。落ち込んだ旅行者数や消費の回復への先行き期待は高まっている。一方、同日解禁された海外客の個人旅行については、効果がまだ先になるとの見方がある。ただ、第8波の状況や観光振興策が打ち切られた以降の落ち込みには警戒が必要だ。日本経済は世界的なインフレと30数年ぶりの円安の中でどこに向かうのかが問われている。それでも社会は全国旅行支援と感染症対策の緩和が進む中で、コロナ後に一気に舵を切った感がある。ならば経済が活発化し、社会が明るくなることを願い、全国旅行支援を存分に活用し、旅行を楽しみたい。(岡村信良)

国内宿泊者数は 支援にあずかれた。3 った。 利用がすさまじかった

2019年比で21年は 人で宿泊。1泊は老舗 地域クーポンはチェ 半分以下、22年もコ ロ ホテルで夕朝食付き、 ックアウト当日中に使 割の支援で繋いできた 1泊は家族向けホテル わなくてはならず、飲 況が続いているとい ったが、宿泊費が40% 込み、中にはいらぬも 割の支援で繋いできた 引きの上、地域クーポ のも買い込んでしまっ 割の支援で繋いできた ンが計1万8000円 た。前回のGOTOの時 勢神宮をめぐった。外 小。全国旅行支援での 付くと、ほぼ半額にな ったが、内宮は観光バ

参加に旅行事業者から は「ようやく」と安堵 の声が届いている。 全国旅行支援の内容 は、一律40%を割引 宿泊が最大8000 円、宿泊のみが同 5000円となってい る。他に1人当たり平 日3000円、休日 1000円の地域クー ポンが付与される。 記者は10月13日から 3日間、三重県を訪れ た。元々予定を立てて いたものだが、運よく



J A西東京ニュースでは見開きページを使い、「山肌 渓谷 燃ゆる色彩」との見出しで紅葉の御岳渓谷を特集

スが次々乗り付け、多くの人でにぎわっていた。ただ、外国人客はあまり目につかなかった。内宮の出入の多さは、隣接する「おはらい町」の存在が大きい。緑日のようなにぎわいを見せ、赤福の本店は大行列。おかげ横丁では露店のようなスタイルで、名物を食す若い世代が目立った。全国旅行支援は12月20日までだが、政府は年末年始の休暇を挟んで、1月から再開する方針という。旅行好きには全国旅行支援を活用しない手はない。政府は完売となった自治体には追加の予算を配分する方針で、年内にも割引宿泊のチャンスは十分ある。第8波の影響がないようにと祈りの宿を予約できるよう今からプランを練るのも楽しいことだ。

### 紅葉の季節迎える山や川

「観光立国西多摩」を標榜しても、宿泊施設が少ない西多摩にとっては、全国旅行支援での盛り上がりは蚊帳の外だ。進む円安もあり、むしろその先の海外客の増加の方が、期待が高そうだ。ただ、「観光立国西多摩」を標榜するだけではむなし。具体的な活性化議論が必要だ。記者は数年来、西多摩は秩父、多摩、甲斐国立公園の表玄関口と言ってきた。西多摩観光は秩父や山梨観光と連携を持たせて人を誘導させられないかと考えてきたが、ここで少し考えが変わってきている。それは使い古された言葉だが、西多摩はやはり東京の奥座敷なのだ。世界の東京の奥座敷敷なら粋さやお洒落感もちらん高級感も出していくべきだ。それが地方の観光地との決定的な違いになるはずだ。高級な東京の奥座敷をキーワードに活性化の議論をしてみたい。それはさておき、西多摩では間もなく紅葉が始まり、1年で最も景観が映える季節を迎える。奥多摩湖、鳩ノ巣渓谷、御岳山、御岳渓谷、そして秋川渓谷。見どころは随所にある。

寺は文化の発信地 創ろう地域の文化を人から歴史から  
**そうぜんじ便り—神無月**  
第71回土曜講座 (お茶代300円) 10月29日13時~16時  
【米軍基地を考える】  
○「沖縄の50年を思う~沖縄出身者の声~」 NPO法人鎌倉てらこや理事長 上江洲 慎さん  
○「議会と基地」 福生市議会議長 清水 義朋さん  
学生無料。予約不要。檀信徒以外の方の参加大歓迎。  
りあるてらこや 11月12日(土)午前9時~12時  
主催はらいむぎハウス。子供たちの居場所作りをしてくれています。勉強したり、一緒に遊んだり、一緒に食事を作ったりと、たくさんボランティアの方々が無償の力で子供たちを見守って下さいます。無料です。  
臨済宗建長寺派 宗禅寺 羽村市川崎2丁目8-20 ☎042-554-1276

石川酒造株式会社  
福生市の気軽に遊びに行ける酒蔵  
新酒解禁!  
多満自慢 あらばしり  
今年の新酒が出来上がりました  
本年度のお酒造り、順調にすすんでいます。そして、十月二十日に搾りたての新酒が発売の運びとなりました。無調整の生原酒!この時期ならではの旬の日本酒をお楽しみください。  
お酒は20歳になってから。  
日本酒とクラフトビールを醸造する酒蔵で、直売店やレストランを併設。緑の多い癒やしの空間。  
公式サイト  
東京都福生市熊川1番地 石川酒造 検索